

反抗的態度を取り勞して効なき事がございます。尤も其方法宜しきを得ぬからでもございませう。其故いつも訓戒する場合には靜に云ひ聞かせる様にして居りましたが、此頃は他兒に比し左程の事もなくなりました。之れ一は年齢の爲でもございませうが多少は幼稚園保育も關係して居ることゝ存じます。

假令幼少なりとも惡徳は決して假借せず嫩の裡に其萌芽を摘み去らなければなりません、除却する方法に付ては寧ろ積極的の法を取るのが宜しかと存じます。

右は極く小さい所感でございますが、どうか皆様御教示を願ひ度う存じます。

剛情の子に、命令を嚴にして、其の代り命令の數を少くするといふことは、此の上のない處方です。命令を嚴にする方だけを用ゐて、少なくする方を用ゐない時は、藥が却つて悪く効いて、害のあることが多いのです。すべて子供の教育方法が積極的でなければならぬことは申す迄もないのですが、此の子供の如き共同心の乏しい方の性質のものに對しては、特にさうです。共同心といふ中に屬するいろ／＼の生活は、す

べて積極的美性を具へたものです。かうしなければいけないと言つて責めた處で、叱つた處で、決して眞に其の性質が生れ出るものではありません。此の子に對してとられた積極主義に對して、全幅の賛同の意を表せざるを得ません。

○落ちつかない子

京都市生祥
幼稚園保母 姫宮うめの

個性と申しまして心理學上より見た嚴格の意味では無しに、唯普通申します一寸した性癖で、しかも其は其儘にして置いては一生其兒が不幸であらう、と云ふ考へから注意致しました事が一つ二つあります。尤も是などは比較的強く表はれたので、全く低能として取扱つたのです。或男兒で年齢は此四月で既に學齡に達して居るのですが、特に保護者から、智力が少し遅れて居る故、との依頼で、預つたのでございます。

外から見ました處、即ち身體的方面では別に他の同年兒と異つて居る點を見出させぬ。唯足許

がしつかりせずヨチ／＼として居る事、手つきも何となくする事が危つかしく見えました。身長、體重、共に勝れて居て血色も善く白い顔に赤い頬してニコ／＼して居る處、眼光の工合もさして普通兒と異りたる事もなく、一見如何にも大家の坊ぢやんらしく見えました。で、二日三日は無事に過ぎましたが、四日目頃からそろ／＼異常の點が表はれてきましたのです。

「先生何さんが鐵砲で撲かかります」「先生何さんが搔はりました」「先生何さんが私の邪魔しやります」「先生何さんが私の玩具を奪はります」「先生何、先生斯様、と絶えま無き注進が集まつて参りました。而して其等は總べて此兒中心の出來事です。

園内は兎も角治めて居ても、園への往復僅か二丁餘りの途上下或は撲た、或は倒したとの事で爲めに他の兒は此兒を恐れて通園を嫌ふ様になりました。

一人の幼兒の爲めに多勢に迷惑かけては相濟まぬとの考へで、保護者と相談して、或時は看護者となり、或時は遊び友達ともなり得る様な比較的年少の少女を附添はする事としました。それから種々の方面から原因を調べて見ました處が、全く遺傳であると斷定する事が出來ました。此兒の祖父母が兩人共大酒家でした。其兒の母親が全く白痴でありました。そして、此母親に女二人男一人の子供が在つて姉二人は普通に發育して小學校なども先づ一と通り卒業しましたが、不幸にも唯一人の男子即ち此の子供にすつかり母の性質を傳へて來たのです。但し其母は此兒の幼い時に死んでしまつて、今は繼母であります、(其の繼母と申す人は實に優しい親切さうな方です。)

精神的方面の發育としては、感情ばかり強く、智も意も甚だ弱いので總べての行爲は感情のみの表はれとしか思はれません。其間に少しも智能の動きを見出す事が出來ません。舉動が發作的で落

付いて遊ぶ、考へてする、と云ふ様な事は殆んどありません。保育室などで他兒と一處に談話を聴いて居ても突然ハンカチアで前の兒の咽喉を締めるなどと云ふ事を致しますので一寸のゆだんも出来ませぬ。

感覺は遲鈍で殊に皮膚感覺などは餘程鈍いので手が冷たいから温めるなど、云ふ事は一度も無く一寸位の傷でも平氣で居ります。今友達に迷惑かけて保母に注意されて一分と經ぬ間にもう同一の事をして居ると云ふ有様、今色紙の色を見せて直ちに捕らせても異ふ色を捕ると云ふ風ですし、自分の持物は常に間違へますが、でも自分の席、自分の家、自分の年齢を覚えて居る點から考へると注意力や記憶力は弱いと云ふても全く失望すべきでもありません。又活動寫真で見た出來事を事實自分の家の出來事の如く想つて保母に熱心に語り聴かす處から考へると不完全ながらも想像力は在るのです。併し一般に精神的方面の働きが前述の

次第ですから思考力などは如何しても見出す事が出来ませぬ。

ざつと右の様な觀察をして、例令遺傳としての先天的素質の矯正は出来なくとも、少しにても其れに變化を與ふる事が出来ればと思ひ、殊に家庭に於て父親だけは、恐れて居ること、又入園當時假令二三日でも其の粗暴を慎んで居た處に、大に教育上の希望がある様に思つて、いろいろ盡して見ました。

先づ注意力に就いて考へました。さしあたり黙りつこ（是は我園で毎朝保育室に入ると一同椅子に落着いて一、二、三で沈黙に入るので、其中で誰か聲を發する者あれば其兒は負けとなりて他の兒は一同萬歳と云つて沈黙を終るのです入園當初は一分間も連きませんが、修了間近になりますと十二三分間も續く事があります）のお仲間に入れました。處が、初めの間は何時も、此兒の負けでしたが、併し半年後には三分間も黙つて居るこ

とが出来た様になりました。

次には少しでも長く落付いて静かに遊び得る様にと、保育室での遊戯、畫方、摺紙、繪本、其他の玩具を分與する時には成可く此兒を後廻しにしました。すると自分の分が来る迄例令一分間でも他兒の遊ぶのを見て居る間に、其遊びに對する興味が生じて、自分の處へ来るのを待ち構へて居ます。従つて其事に對して自分もしやうと云ふ意識が働いて居るのが外から見える位でした。

それから又斯様の事も試みました。一つの玩具を遊ぶ前、或は摺紙を摺む前、或は畫方をする前に、「今日はどんな繪を畫きますか」「今日は何を摺みますか」豫めの目的を問ひました始めの間は山を畫くと申しても家になつたり、蝶を摺むと云ふても舟になつたり致しましたが、半年後には兎に角山に兎と龜の居る繪が出来、蝶は蝶となつて表はる様になりました。尤も年齢に比しては二年位低い程度の材料でしたが。

音聲も悪い方ではありませんが、例の注意して聽く事がありませんので、斷片的には歌ひますが一つの歌詞を完全に歌ふなど、云ふ事はありません。それから此兒に就いて不審なのは唱歌遊戯の時です、半年間に一日も他兒と同一の動作した事はありませぬ。何時も「馬鹿らしい」と云ふ態度で見えて居ります。

自由遊戯中他人に迷惑をかくる行爲の外、個人としての我儘は大抵許して置きました。友人に對しての同情などは全くありませんし且つ養ふ機會も見出しませんでした、何故ならば此兒は何時も弱者の位置で(女兒相手にせず)刹那々の行爲の連続ですから。

食事の作法も少しは善くなりましたが、まだまだ副食物などを手で扱ふ事があります。爲に此兒に對する時の保育の言語は特に低聲で静かに云ふ様にして居ります。保育すると云ふ立場からはつと根本的に研究して、取扱はなければなりません。

んが、何分四十名を一人の保姆で受持つて居るの
で如何しても思ふ様に手が廻りませぬ。

近頃此兒と全く反對で、同じ低能でも此兒を陽
性とすれば、今度のは全く陰性で、體の小さい顔
色の悪い、元氣の無い七才でもただ自分の年が云
へず指で示して居る様な子が一人参りました。併
し入園後日が残いので觀察も十分出来ません、三
田谷先生のピネトジモン法で検査しても六年男の
第三テストが唯一つ「十」で他は總て「一」でした。
以上は唯實事を書き連ねたにすぎません。御經
験深き諸先生の御教示によつて確實な考へを得た
いと思ひます、幸に御導き下さらん事を祈ります。

祖父母の大酒、母の白痴、そして此の子。何とも言ひ様もな
く胸苦しくなるのです。寄つてたかつて此の子を粗野な落ち
つきのないものに拵へ上げた様のもではありませぬか。し
かし、其の祖父母が此の子を見ましたら、そして、此の子の生
命の根にある遺傳の恐ろしさを考へたら、さぞ自らも心苦し
く悲しく思ふでせう。遺傳はたゞ嚴肅なる自然の事實です。
吾々自身が此の嚴肅なる事實の前に、如何に嚴肅に戒心すべ

きかば言ふ迄もないことですが、遡つて誰れを責め様もない
ことです。責めたとして如何ともすることの出来ない程に、嚴
肅な事實です。たゞ此の事實に對して、教育といふ嚴肅なる
人間の事實があります。そして、之れだけが彼の事實に對立
し得るのです。

さて此の子供について、よくそこ迄深く家族調査をせられま
した。此の家族調査が、どの位、此の子に對する教育精神を
振ひ起すに與つて力あつたか測られませぬ。罪は其の子にな
くなつたのです。それどころか、遺傳の事實が明かになれば
なる程、教育の事實は猛然として奮起せざるを得なくなつた
のです。少しでも問題になる特殊幼兒に對しては、是非とも
此の家族調査をしたいものです。

落ちつきのない發作性の子に對して執られた三つの方法は、
最も要を得て居ると言はざるを得ません。(一)沈黙練習と、
(二)事をさせる前に其の興味を準備すること、(三)事を始め
る前に其の目的を立てさせること。之れは實に組織的な方法
です。そして、恐らく、根本方針として、之れで盡きて居ませ
う。沈黙練習はすなはち意志の禁制力の養成でせう。事をさ
せる前に興味を豊かにさせるのは、意志の効力を内容的に充
實したものにする養成でせう。事を始める前に其の目的を立
てさせるのは、意志の選擇性を確實ならしめる養成でせう。
幼兒期の意志養成手段としては、實に最も適宜にして、又是
非必要な三點です。此の三つの中で第一はモンテッソーリな
ども既に説いて居ますし、第三も米國などで此頃此の説をな
す人があります。そして多少とも諸方に行はれて居ますが、

第二の『興味の準備』といふことは、餘り更めて説いて居る人もない様ですけど、私は豫て意志養成に極めて大切なことに考へて居ります。殊に近世の忙しい生活は一寸した思ひつきや、一寸した刺戟に動かされて事をする場合が多くなつて充分内に熟した自分の興味によつてするといふ類のことは、次第に減じて來勝ちなので、此の近世の落付きのない生活の一つの弊に對しても、此の點は幼時からよく養ひ度いと思つて居るのです。それを此の子供に適用せられたのは實に愉快なことです。更に此の子供の場合から出發して、一般的に、此の問題を一層詳しく御研究になつたら如何でせう。どうしたら、興味の内に完熟する迄的發表を自然的に抑えて居られる様になるか、之れは充分御研究になる價値がある有益なことゝ信じます。

▼優れたるにつけ、劣れるにつけ、又は或る點に就て特殊な個性性癖を有せるにつけ、保育上苦心せられた幼児についての御經驗談をお送り下さい。▲

本誌の新しい表紙の圖案は東京女子高等師範學校教授岡田秀氏の、又題字は同講師岡田起作氏の御好意によつたものであります。

お正月

△ △ △

○お正月が來た。子供の喜ぶお正月が來た。子供の喜ぶことなら、年が年中でもいゝ。況んや一年一度のお正月だ。いくらでも子供を喜ばせてやり度い。

○五つの節句、舶來のクリスマス、其の他一日位づゝの子供の日は他にも無いでもないが、暮の煤掃、餅つきから待ち構へて、少くも松の内五日七草七日といふ、連續した自分達の世界を此の地上に實現し得るのは、子供達にとつてお正月だけだ。新しい着物を着せて貰へる。男の子には紙鳶、獨樂、女の子には羽子板、手鞠が買つて貰へる。夜の遊び時間の制限も常よりは多少おゆるしが出て、加留多が與へられる。雙六が與へられる。かけ物の蜜柑やお煎餅が澤山に積み上げられる。世界は何といふ面白い處なのだらう。